

ハーモニ



(第21号)

発行：下田市役所企画財政課 編集協力：男女共同参画社会の実現を目指す市民懇話会
電話：22-2212 FAX：22-3910 メール：kikaku@city.shimoda.shizuoka.jp

下田市で初めての「男女共同参画社会づくり宣言」実施事業所

「伊豆太陽農協協同組合（JA伊豆太陽）」の活動を紹介します。

平成 20 年5月7日、伊豆太陽農業協同組合は、「男女共同参画社会づくり」宣言を実施しました。

具体的な取組内容は、次のとおりです。

1. 毎月開催される職場内会議で公序良俗研修をおこなう。
2. ノー残業デー（水曜日・金曜日）により時間外労働の低減に努める。
3. 女性職員の比率向上に努める。

前号（第 20 号）で紹介いたしましたとおり、取材のご協力をいただき、昨年 12 月 22 日（水）、東本郷のJA伊豆太陽本店を男女懇話会メンバー5 名が訪問しました。



(↑) JA伊豆太陽本店 2 階に掲示された男女共同参画社会づくり宣言登録証

取材にご協力いただいた

JA伊豆太陽総務部長 鈴木順一様 (↓)



平成 19 年まで人事部長の要職にあった鈴木総務部長は、宣言実施にあたって中心的な役割を果たされました。

取組1：職場内会議でコンプライアンス（セクハラ防止等）の周知徹底、

取組2：時間外勤務低減による職員の健康維持、家庭サービスの励行、

取組3：性差別をなくす方向での昇格、昇進を進め、平成 14 年に初の女性支店長誕生、現在は職員 450 名中、女性支店長 2 名、管理職 3 名の登用実施、また、県下JAの取組として、女性理事 2 名を設け、その他にJAへの参画意識を高める対応などを推進。

鈴木部長から、20分ほどJA伊豆太陽の取組内容をご紹介いただいた後、懇話会メンバーと意見交換をさせていただきました。

(↓) メンバーとの意見交換の様子



Q: 女性職員の負担軽減として、育児休暇、介護休暇など認めていますか？

A: (鈴木部長)

労働基準法に従って休暇制度を運用しています。最近、育児休暇を利用する女性職員が増えました。それなりのノウハウを持った職員が、いわゆる「寿退職」をするのは、JA伊豆太陽農協にとってマイナスと考えています。育休明けに職場復帰する職員が増え、離職率低下につながったのは歓迎しています。

※JA伊豆太陽職員の育児休暇利用者数
H13～H22 延べ 21 名

Q: 平成 14 年に、初めて支店長になられた方の人柄を教えてください。

A: (鈴木部長)

共済事業の専任アドバイザー経験者で、熱心に職務に取り組み、社交性のある方です。

Q: ノー残業デーについて、職員の理解は得られていますか。

A: (鈴木部長)

朝礼等で周知しているため、職員には、徐々に浸透しています。JA伊豆太陽の正規の勤務時間は午前 8:20～午後 5:10 と定められています。午後 5:10 以降は、家庭のことを第一に考えなさい、また残業を避けるため、無駄な勤務時間をなくしなさいと職員には指導しています。

Q:職員向けの託児所設置を検討されていますか。

A:(鈴木部長)

職員が安心して働くための環境づくりとして、託児所設置の必要性は十分認識していますが、実現までにはいたっておりません。

意見交換後、鈴木部長から、男女共同参画についてのお考えを伺うことができました。鈴木部長は、男女共同参画とは、男女間の公平性を重視すべきで、むりやり平等意識をすすめていっても、市民から支持を得られないのではないかと思うと話されました。

白浜小学校人権教育研究発表会に参加しました。

男女共同参画社会の実現とは、男女の人権が尊重され、尊厳を持って個人が生きることのできる社会づくりを目指すものです。

平成22年11月2日(火)、白浜小学校で「人権教育研究発表会」が開催されました。小学校でどのような人権教育が行われているかを知るために、男女懇話会メンバーが参加させていただきました。



←体育館での「全体集会」の様子

出席者は、県内の教育関係者や地域の協力団体です。

研究テーマ

「のぞみを高く学び共に伸びゆく子の育成」



←公開授業、4年生「道徳」を見学させていただきました。

担当は、中村先生です。

教材:物語「祭の日」

キーワード

「重なり合うように」

物語「祭の日」

ある小学校の音楽発表会で、「祭の日」という題名の合唱を披露することになった児童たちがいました。はじめのうちは、合唱の練習がうまくいきません。皆でどうしたら練習がうまくいくか話し合ったところ、一人の児童が「重なり合うように練習したらどうか」と発言しました。その発言をきっかけとして、練習がうまくいくようになりました。



←中村先生の問いかけに、児童が挙手して答えようとしています。

物語の登場人物たちの気持ちを考えさせ、自分はどう思うか発表させました。

児童たちの意見は、「自分をもっと練習をがんばることが大事」、「まわりの気持ちを大事にして練習しよう」という2つの意見に集約されました。

中村先生は、「一人ひとりのがんばろうとする気持ちと、まわりのことを考えて音が重なるように工夫することがうまくみあったから、合唱練習が成功した」ということを児童に教えて、授業は終わりました。児童たちが、「自分の生き方と、他の人の気持ちや考え方をともに大切にしていこう」と考えあい、学びあう姿を見学させていただき、感動しました。

※男女共同参画情報紙「ハーモニー」についてのご意見、ご感想を募集中です。また、ご希望の方には、過去発行された「ハーモニー」(創刊号～第19号)を郵送できます。

下田市役所 企画財政課 企画調整業務担当 ☎22-2212までご連絡ください。